

子どもの遊び場の現状と将来におけるあり方に関する研究

長崎大学大学院 学生会員 ○利根 佳享
 長崎大学大学院 学生会員 弓削田 祥平
 長崎大学大学院 正 会 員 後藤 恵之輔

1. はじめに

近年、少年犯罪の増加や凶悪化が深刻な社会問題となっている。犯罪白書によると、少年の刑法犯検挙人員は、1955 年以降徐々に増加した後、1984 年以降は減少傾向を示しているものの、毎年 20 万人前後を数えている。一方、殺人の検挙人員は 1998 年に 100 人を上回り、それ以降 100 人台を維持している¹⁾。このような社会状況下、青少年の健全育成の重要性が再認識されるとともに、市民が安全で快適に遊ぶことのできる施設を創造することが重要な課題となっている。そこで本研究では長崎市松山町周辺を対象として、青少年の健全育成に必要とされる子どもの遊び場を調査した。また公園について危険となる状況を紹介します。安全で快適に利用できるためには、今後どのような対策をしていく必要があるのかを考察し、将来における公園のあり方を提言する。

2. 子どもの遊び場に関する調査

2.1 調査目的

青少年の健全育成は、家庭環境においてのみならず、様々な場所においてなされるものである。しかし、青少年の健全育成の場として考えることのできる施設の情報が、地域住民に対して提供されていないのが現状である。そこで本研究では、子どもの遊び場を調査し、広く地域住民に紹介するとともに、詳細な情報を掲載することによって、各施設を安全で快適に利用できるようにすることを目的としている。

2.2 子どもの遊び場マップ

図 - 1 に松山町周辺の子どもの遊び場マップを示す。ここでは、松山町周辺において 13 箇所の子どもの遊び場を調査し、それぞれの遊び場ごとに、設備や利用方法等の詳細な情報を掲載している。13 箇所の内訳は、運動施設 5 箇所、児童施設 1 箇所、公園 5 箇所、親水広場 2 箇所となっている。

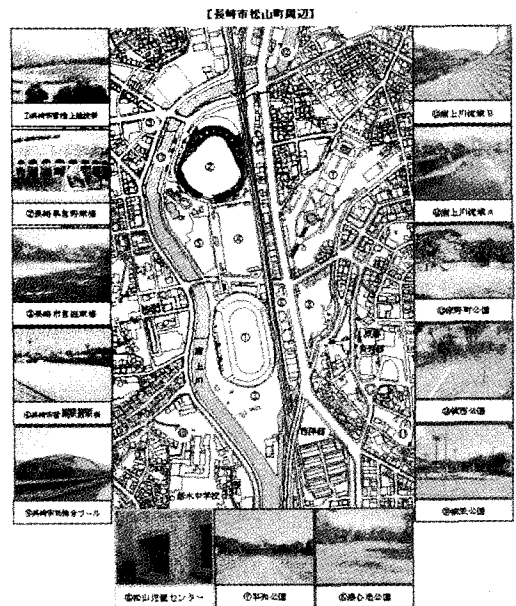


図 - 1 長崎市松山町周辺の子どもの遊び場マップ

3. 公園の安全性に関する調査

3.1 公園の安全性

都市における公園は、我々の生活を豊かにしてくれる様々な機能を有している。しかし、近年では公園の安全性が問題となっており、特に死角や暗がりの問題、衛生面の問題等は早急に改善していく必要がある。以下にこれらの危険箇所について事例を挙げながら説明する。

3.2 公園における危険箇所

公園における危険箇所として、植生や設備等による死角、夜間の照明の不適切さによる暗がり、衛生上問題のある砂場等が挙げられる。写真 - 1 は視界を遮っている植栽である。ここでは植栽によって視界が遮られ、公園内の様子を外部からうかがうことができない。また写真 - 2 のような大型遊具の陰にも死角ができてしまう。このような死角は公園を周囲から孤立させ、公園が犯罪の温床となる原因になりえる。写真 -

3 は樹木の合間にある街灯である。街灯が樹木に囲まれているため、周囲に十分な明るさを提供できていない。景観的配慮からこのような状態になっていると考えられるが、夜間における安全性を考慮すると改善する必要がある。写真 - 4 は管理がされていない砂場である。管理が十分にされていないため、動物の糞や雑草等がみられ、衛生面に問題のある砂場となっている。まず砂を入れ替える等の処置をした後、砂場にシートをかける等の管理をおこなっていく必要がある。

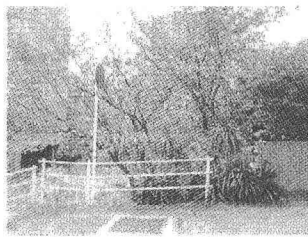


写真 - 1 視界を遮る植栽



写真 - 2 大型遊具の陰

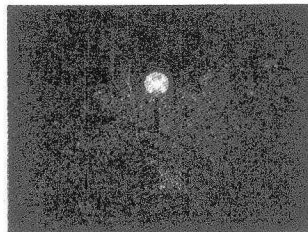


写真 - 3 樹木の合間にある街灯

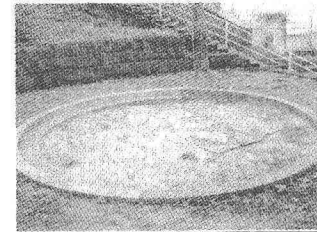


写真 - 4 管理されていない砂場

4. 安全で快適な公園の創造

現在の公園建設においては、従来の公園建設の考え方に加えて、ユニバーサルデザインや景観への配慮等が求められてきている。そうした状況の中、安全で快適な公園を創造することは大変困難な作業である。ここでは安全で快適な公園をどのように創造していけばよいかを考えていく。

安全で快適な公園を創造するためには、まず公園の現状を知ることが必要である。公園における危険な状況を調べ、その危険な状況をどのようにすれば排除できるのかを考える。そのとき重要となるのは、子どもの目線で危険を点検することである。公園を主として利用するのは子どもであり、その子どもの立場にたつて調査をおこなうことは、危険な状況を未然に防ぐためにも重要なことである。現状を知ることができれば、次に危険な状況を改善するよう行政に働きかける必要がある。そして行政は改善をおこなうと同時に、公園の現状や過去に起きた事件・事故等を広く市民に伝えることも重要となってくる。このように住民と行政が協力することで事件・事故の再発を防止することができ、安全で快適な公園の創造につながると考えられる。

公園における犯罪を未然に防ぐためには、特に昼間において常に公園を誰かが気にしている状況を作り出す必要がある。そのためには地域住民・学校・行政等が協力して、コミュニティを形成することが必要である。これこそが安全で快適な公園を創造する上で最も重要な要素である。

以上の流れを図示すると図 - 2 のようになる。それぞれの段階において何が重要かを理解した上で実行していくことで、最終段階であるコミュニティの形成がより効果的におこなわれるものと考えられる。

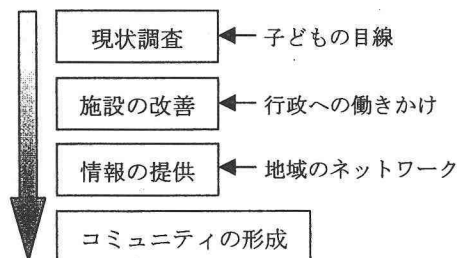


図 - 2 安全な公園創造の流れ

5. おわりに

安全で快適な空間を創造するためには、子どもの遊び場についての詳細な情報、特にどのような場所に危険があるのかを地域住民に伝えることが重要である。これらの危険情報を地域住民に伝えることにより、地域住民の安全に対する意識が高まるものと考えられる。そのことにより、地域住民による地域の安全を守るためのコミュニティが形成される。つまり地域住民による監視の目ができあがるのである。この地域住民の目が犯罪を未然に防ぎ、安全で快適な空間の創造するのである。

<参考文献>

- 1) 法務省法務総合研究所：犯罪白書（平成 14 年版），2002，348p.